

NO30

勤労働員学徒の供養塔

所在地は津市上浜町ひょうたん池畔（三交バス「上浜町六丁目」下車すぐ）



1945年、名古屋から勤労働員で津へ来ていて空襲の犠牲になった名古屋市立機械工業学校の教員と生徒15人の供養塔である。

同校は同年3月の名古屋空襲で校舎を焼失、3年生（15歳）の167人は津市江戸橋の軍需工場へと動員された。

6月26日の津の空襲の際、このひょうたん池の畔の森に生徒たちは退避した。しかしそこに爆弾が投下され、教員と生徒12人が爆死、数10人の負傷者を出した。負傷者は県立病院などに運ばれ、学友が交代でつきそいをした。

しかし7月24日の津への再度の空襲により病院も爆破され、つきそっていた生徒3人が爆死した。

これは三重県での最大の学徒動員の惨事である。その後、地元の人や同窓生によってこの場所に供養塔が建てられた。

20060625 掲載